

ぶらりびと

ピアニスト

いま だ あつし
今田 篤さん



©Vita Pictures

文化芸術に携わる方々にお話を伺い、

掛川市の文化振興のヒントをいただくこのシリーズ。

第30回目は、ピアニストの今田篤さんに

お話を伺いました。

専門的な学校生活において、ご自身が刺激を受けたことは何でしょうか？

高校進学のために上京した時のことです。それまではコンクールに出来るだけ多く参加し、長時間の練習のみしかしておらず音楽について、演奏家については全く無知でした。高校に入学しクラスメートとの会話の中で自分が知らない横文字の演奏家や作曲家たちが登場しました。その場ではわかったふりをして帰宅後CDショップに通い今までに聴いたことのない音源を聴き漁りました。

文化芸術というものをどのように捉えていますか？

近年音楽に関わらず、どんなことにも効率化が求められます。勿論、効率よく何かをすることは重要なことです

が、文化芸術、特に再現芸術である音楽において何よりも大切なことは曲の背景に秘められた作曲家の思想、感情を表現することです。作曲家が長い年月をかけ完成させたものなので、音だけ並べて表面的に理解するのではなく演奏者も時間をかけて楽譜の裏側を読み込まなければいけないと思っております。

その概念を理解してもらうために必要なことは何でしょうか？

難しいことは考えずに自然に音楽を感じていたければ嬉しいですが。耳だけでなく五感で感じていただければより楽しめるかもしれません。クラシック音楽は敷居が高く、敬遠される方もいらつしやると思いますが、あまり難しく考えずに聴いていただけたら幸いです。